

	中期経営目標 【3年間】	短期経営目標 【1年目】	目標達成のための手立て	評価項目<評価方法>	評価	最終評価
確かな学力	基礎・基本の定着及び課題発見・解決学習の充実 <一中における付けたい資質・能力の育成>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「付けたい資質・能力」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科で授業を実践し、自律的に学び、活動できる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての教員が各教科の授業で「付けたい資質・能力」育成のための「主体的な学び」となるよう各教科での授業の工夫、改善を行う。</li> <li>広島県公立高等学校入試問題の傾向を検証し、各教科で評価問題を作成する。</li> </ul>	①「各教科の授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目で肯定的な回答をする生徒の割合が70% <生徒アンケート> (1、2学期実施) ②「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をする職員の割合が100% <職員アンケート> (3学期実施)	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業がわかる、面白い、楽しみである」の3項目での生徒アンケートの結果は次の通りとなった。 7月実施結果 授業がわかる (94.1%) 授業が面白い (82.4%) 授業が楽しみである (72.5%) 1月実施結果 授業がわかる (90.2%) 授業が面白い (80.8%) 授業が楽しみである (69.0%) 肯定的回答をした生徒の割合は「楽しみ」の項目で1.0%目標を下回った。「主体的な学び」に向けた教職員の授業改善に対する取組を更に進めていく必要がある。</li> <li>「各教科において評価問題を開発することができた」という肯定的な回答をした職員の割合は100%であった。全教科で広島県公立高等学校入試問題を意識した定期試験問題の作成に取り組むことができた。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業規律を大切にし、「書く力」「伝え合う力」を高める指導及び家庭学習の定着の充実を図るとともに、自分の考え等を分かりやすく書き、伝え合うことのできる生徒、また、自ら学ぶ力を身に付けた生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、「振り返り」を充実させる。</li> <li>自分の考えをノートにまとめたり、伝え合ったりする場面(言語活動の活用等)を充実させる。</li> <li>各学年の家庭学習目標時間(学年+1時間)に応じて、宿題の出し方(量、期限等)を教科担任間で連携・調整する。その状況を担任も確認し、必要に応じて保護者連携を行う。</li> </ul>	③③授業のまとめ・振り返りまで確実に言い、終了時間を守って授業を終える。職員の自己評価 80% <職員アンケート> ④ 自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」生徒 70% <生徒アンケート> (各学期末に実施) ⑤⑤全国学力・学習状況調査の課題がある類似問題を作成実施し、4月より5ポイント上昇させる。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業のまとめ・振り返りまで確実に言い、終了時間を守って授業を終える」ことへの職員アンケートの結果は、7月実施結果は「4-よくあてはまる…17.4%」「3-ややあてはまる…82.6%」1月実施結果は「4-よくあてはまる…31.8%」「3-ややあてはまる…68.2%」であった。</li> <li>自分の考え等を、「ノートに分かりやすく書いている」(7月 87.2%) (1月 86.6%)、「相手意識をもって、分かりやすく伝えている」(7月 80.3%) (1月 77.3%)となり、目標値を達成することができた。</li> <li>残念ながら4月に実施された3学年の全国学力・学習状況調査結果は、全国の平均正答率を下回ったが、課題があった問題を数題選び、類似問題あるいは同一問題を2学年対象で1月初めに実施した結果、3学年の4月時の結果と比較して正答率は平均して10.9ポイント上回った。</li> </ul>
豊かな人間性の確立	豊かな人間性の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織的な生徒指導体制を確立し、問題行動の未然防止に努める。</li> <li>自治的活動を推進し、生徒一人一人の自己指導能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導部会を週1回開催し、情報の共有化と今後の指導方針を確立させる。</li> <li>生徒会活動や学級活動を充実させ、集団の一員としての役割と責任を自覚させる。</li> </ul>	⑥「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」「身だしなみ(服装・髪型)のルールを守っている」生徒 90% <生徒アンケート> ⑦⑦「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」「無言清掃(生徒会で設定した期間)」「誰にでも、自分からレベル5の挨拶を意識してできている」生徒 90% <生徒アンケート>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月に実施した生徒アンケートにおいて、次の3つの質問(ア)「休まないこと・遅れないことを意識しながら生活している」(イ)「授業・掃除・学活等の開始時間を守っている」(ウ)「身だしなみ(服装・髪型)のルールを守っている」に対して肯定的な回答をした生徒は90%以上((ア)93.1%(イ)96.4%(ウ)98.6%)で、目標値を達成することができた。</li> <li>(エ)「本気で(時間いっぱい、ていねいに)掃除をしている」(オ)「無言清掃(生徒会で設定した期間)」については、肯定的な回答をした生徒は90%以上((エ)90.7%(オ)93.4%)であったが、(カ)「誰にでも、自分からレベル5のあいさつを意識してできている」に対しては、肯定的回答は79.5%と目標値を大きく下回った。生徒会執行部の活動を仕組み、『挨拶ができる一中』を意識させて生徒の生活改善と学校の活性化を図っていく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>認め合い・支え合える学級集団づくりを進めるとともに、自他ともに大切に生活できる生徒を育てる。</li> <li>学校行事や部活動を通して、生徒の主体的な活動を推進し、思いやりの心やリーダー性を発揮できる生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-Uアンケートを年間2回言い、データを参考にしながら集団づくりを進める。(分析結果等を夏季校内研修や学年会で交流し、データを活用する)</li> <li>生徒会活動や部長会を活性化し、生徒が主体的に活動する手立ての工夫を行う。(生徒朝会の定例化や集会で目標や課題の共有化を図る)</li> <li>リーダー指導・育成を充実させ、主体的な活動に繋げる工夫を行う。(学校・生徒会行事や執行部会・部長会・小中リーダー研修等を活用する)</li> </ul>	⑧「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」生徒 90%以上 ⑨「毎月の生徒会目標を意識して生活している」生徒 70%以上 ⑩「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」生徒 90%	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>1月実施の生徒アンケートにおいて、「自分たちのクラスは、互いの良さや足りないところを認め合い、支え合おうとしている」という質問への肯定的回答は7月時とほぼ同じ85.5%で、目標値に届かなかった。</li> <li>「毎月の生徒会目標を意識して生活している」という設問への肯定的回答は70.4%であった。</li> <li>「行事(体育大会・文化祭など)や生徒会活動(執行部・各種委員会など)、学級活動(係・班など)、部活動で、自分の役割を果たそうとしている」という質問への肯定的回答は94.2%で、目標値には届いたが、昨年度より1.8ポイント減であった。</li> </ul> <p>QUアンケートや生徒アンケート結果を学年・生徒指導部で分析し、生徒実態に応じた教育活動を展開するとともに、委員会活動の活性化を図り、今後も集団づくりを継続的に進めていく。諸行事における取組を通して、生徒一人一人が主体的に活動できる環境をつくる。</p>
健やかな体	生きていく基礎・基本となる体力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業や部活動・委員会活動等を通して、「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組・指導を連鎖的・継続的に言い、全身持久力を中心にバランスのとれた体力を身に付けた生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育授業の準備・補強運動に体力を高める運動(特に全身持久力)を計画的に取り入れる。</li> <li>「体力づくり」「生活リズムの保持・向上」に係る取組(部活動強化週間、生活リズム向上キャンペーン、駅伝大会等)を毎学期1回企画・実施・評価する。</li> <li>「昼休憩のボールや縄跳びの貸し出し」等を行い、運動が行いやすい環境づくりを進める。</li> </ul>	⑪⑪体力テストにおいて全国平均以上の体力の育成をめざす。全国平均以上の項目 70%以上 ⑫ 新体力テスト(①5~6月、②11月~2月)の「全身持久力」の項目において、各学年男女とも全国平均・県平均を上回る。 ⑬「体力を高めることを意識しながら生活している」「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」生徒 85%以上	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度の体力テストは、65%が全国平均を上回り、5ポイント目標値に届かなかった。本校の重点課題は、柔軟性とスピードである。体育の授業において、計画的に5分間走・変形ダッシュや筋力トレーニングを取り入れ改善していく。継続課題である持久走においては、70%を超え改善傾向である。</li> <li>「体力を高めることを意識しながら生活している」という項目への肯定的回答は85.3%で、昨年度より0.7%減。「生活リズムをよりよくすることを意識しながら生活している」という項目への肯定的回答は88.5%で、昨年度より2.5ポイント増であった。</li> </ul> <p>規則正しい生活習慣が身についてきている。今後も継続・改善していくために、生活委員等の委員会活動を活性化や保健だより等で啓発活動を行う。部活動の活性化と充実をさらに向上させるために、部長会等を中心に取り組んで行く。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>気になる生徒への声掛けや、部活動へ付く時間を増やすことで、問題行動の未然防止や生徒の力をつける。</li> <li>本校が設定する退校時間を守ることで職員個々の自由な時間を増やし、ゆとりを持たせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学級担任は計画的に個人面談を行い、生徒の実態を把握する。</li> <li>各部活動顧問は計画的に個人面談を行い、生徒の実態を把握する。</li> <li>水曜日は本校が設定する退校時間に帰るようにし、自分の時間を持ち、公私とも余裕を持って生活できるようにする。</li> </ul>	⑭「先生はあなたの良い所を認めてくれますか」各学年とも全国平均・県平均を上回る。生徒 80%以上 ⑮ 職員が水曜日に、本校が設定する退校時間を守ることができる。職員 90%以上	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>「先生はあなたの良い所を認めてくれますか」に対する生徒アンケートの肯定的回答は次の通りとなった。 7月実施結果 1年が88.6%、2年が88.6%、3年が90.8% 1月実施結果 1年が81.4%、2年が90.2%、3年が86.7% (全国平均は80.2%、県平均は83.6%) 各学年とも80%以上で全国平均・県平均を上回った。</li> <li>設定した退校時刻を守ることができる職員は1月末月平均では63%であった。</li> </ul>